

アート前橋 滞在制作事業 過去の招聘アーティスト

照屋勇賢

国 籍：日本 ※アメリカ在住

滞在期間：2011年2月28日～3月31日

滞在期間中に前橋で東日本大震災を経験し、「芸術は社会の危機に何が出来るか」を地域のアーティストや住民と対話を重ね、震災報道の新聞紙面から植物の芽が立ち上がってくる作品を制作した。この作品は地域の記憶として残すために作品を共同購入してアート前橋に寄贈する市民活動に繋がった。また滞在の経験をもとに照屋が残したアイデアにより、コミッションワークが滞在制作終了後に、アート前橋館内に設置された。

プロフィール

1973年、沖縄県生まれ、ニューヨーク在住。1996年に多摩美術大学絵画科卒業、2001年ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアート修士課程修了。世界各地の展覧会に参加し、国内外で評価されている。2002年オールドリッチ現代美術館にて新人賞受賞。

ペ・ヨンファン

国 籍：韓国

滞在期間：2011年8月14日～29日／10月2日～15日

前橋の社会学者と協力し、普段とは違う視点で街を見るため、頭の前と後ろにカメラを取り付け、東日本大震災の被災地を撮影した映像作品を制作。作品は、テレビニュースなどとは全く異なる形で被災地の風景を伝えるものとなった。また被災地で見つけた瓦礫の木片などで、ギターとウクレレの形をした作品も制作した。パブリックプログラムとして、制作した作品の展示とトークを行った。

プロフィール

1969年生まれ。ソウルを拠点に活動するアーティスト。1990年、ソウルの弘益大学校 (Hongik University) 卒業。主な個展に、2016年「Project Exhibition : Bae Young-whan,」 (PKM Gallery、韓国)、2012年「A Song for Nobody」 (サムソン美術館、韓国) など。主なグループ展に、2015年「Land of happiness」 (ソウル市北ソウル美術館、韓国)、2013年「All You Need Is LOVE」 (森美術館、日本) など多数。



制作の様子



トークイベントの様子



被災地の撮影の様子



アーティストトークの様子

伊藤存

国 籍：日本

滞在期間：2013年10月25日～12月15日

廃業した銭湯を舞台に、公開制作、作品展示、アーティストトークを行った。前橋市内を流れる川や中心市街地などに生息する生き物をリサーチし、それらのドローイングを制作したのち、街のなかに潜む約40種類の生き物たちの世界を刺繍作品で表現した。ここで制作された作品は、当プロジェクトの報告展としてアーツ前橋で展示した。

プロフィール

1971年、大阪生まれ。動植物や人をモチーフとする刺繍・映像作品などを制作している。糸の盛り上がり、針の運びによる表現は、でこぼこした味わい深い輪郭線をもち、触覚にも訴えかけながらわたしたちの意識に入り込んでくる。物の輪郭はしばしば行方不明となり、モチーフが不可解に混ざり合って配置され、全体が作られる。謎かけのようなタイトルが付された作品はユーモアにくるまれる。



制作の様子



展示の様子

幸田千依

国 籍：日本

滞在期間：2013年10月25日～12月15日

廃業した銭湯を舞台に、公開制作、作品展示、アーティストトークを行った。滞在中、公開制作を訪れる市民と交流しながら制作。前橋で印象に残った風景と、実際に描くときの自身の会場や来場者との会話を織り交ぜた絵画作品を制作した。ここで制作された作品は、当プロジェクトの報告展としてアーツ前橋で展示した。

プロフィール

1983年、東京生まれ長崎育ち。2007年多摩美術大学卒業。様々な場所に住みながらつくる、レジデンスや滞在制作を中心とした活動を行っている。完成した絵画を展示するだけでなく、公開制作を自覚的に行うなど、自身が絵画をつくる過程を見せること、人と作品との出会い方について考え、描くことと見せることの両方について模索。「歩く絵の冒険」など、絵画を室内以外で見せる試みなども展開中。



制作の様子



アーティストトークの様子

フェルナンド・ガルシア・ドリー

国 籍：スペイン

滞在期間：2013年10月21日～11月11日

現代の農業と社会の関係を話し合うための場作りを最初に行い、滞在中は、そこに市内の農家や酪農家を招き、複数回のトークイベントを行った。その場にいる人々との対等な関係を築きながら、多様で自由な見方や価値観を共有するような場を作るプロジェクトを行った。アーツ前橋の展覧会「フードスケープ 私たちは食べものでできている」（2016年）にも参加。

プロフィール

1978年、マドリッド生まれ。造形美術や農村社会学を学び、これまでマドリッド、ベルリン、スペイン北部の山間を行き来しながらアーティストや農エコロジストとしての活動を行ってきた。作品は、文化と自然の関係性を問うものが多く、ランドスケープ、農村、さらには人間の欲望や期待についての問いかけをしてきた。また、これらのテーマは、アイデンティティー、自然や社会の危機、あるいはユートピアといったものにも関連し、近年のプロジェクトではネオ・パストラルを提案している。

片山真理

国 籍：日本

滞在期間：2014年9月30日～10月28日／2015年2月19日～3月16日

大学時代までの群馬県で過ごした片山は、地元での滞在制作だからこそ新しいことに挑戦する機会だと捉え、市民とのワークショップを経ての作品制作や、地域の商店に協力してもらい、店内でのセルフポートレートの撮影など、地域と深く関わりながら制作を行った。最終的には制作した作品の展示と、報告トークを行った。

プロフィール

1987年、埼玉県生まれ、群馬県育ち。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。9歳の時に両足を切断。以後、自身で装飾を施した義足を使用し、セルフポートレートを制作。現在、作品制作の他に『ハイヒールプロジェクト』として歌手、モデル、講演、執筆など多岐に渡り活動している。受賞に、2005年「群馬青年ビエンナーレ奨励賞」、群馬県立近代美術館、2012年「アートアワードトーキョー丸ノ内グランプリ」など。



市民とのトークイベントの様子



自身が開発した食を提供するイベントの様子



ワークショップの様子



展示の様子

ヘヴン・ベク

国 籍：韓国

滞在期間：2014年11月1日～12月27日

地域の人とコミュニケーションをとり、地域が変化していく中で、なくなってしまったものに対する記憶記憶をもう一度考えなおしてみるワークショップを行った。最終的にはワークショップ参加者と赤城山の頂上にある大沼にいき、記憶を刻むパフォーマンスを行い、映像作品を制作した。

プロフィール

韓国、釜山生まれ。スコットランドのグラスゴー美術大学にて美術修士号を取得した。ビデオを主なメディアとし、様々な社会の事柄への関心を実践的に探求し表現している。2013年には、韓国のアルコ美術館の「ヤング・アート・フロンティア」プログラムアーティストに選出される。



ワークショップの様子



パフォーマンスの様子

木村崇人

国 籍：日本

滞在期間：2015年8月1日～9月6日／2016年1月10日～2月17日

「地球と遊ぶ」をテーマに活動する木村は、中心市街地における都市エリアと、赤城山に代表される自然エリアが近い距離に存在することを前橋の特徴と捉え、アーツ前橋に隣接する馬場川通り商店街にある、東屋を赤城山で採取した植物を使って改修した作品《赤城山をつなぐ》を地域の協力のもと制作した。制作された作品は、2回目の滞在期間でより管理しやすいよう手を加え、引き続き地域の協力のもと設置されることになった。



《赤城山をつなぐ》

プロフィール

1971年、愛知県出身。東京芸術大学大学院博士課程修了。「地球と遊ぶ」をコンセプトに「地球の持つ見えない力を知覚する装置」を制作し、作品を体験することで、ものごとを情報としてではなく実感できる体験型の作品を主に制作している。アーツ前橋の展覧会「ここに棲むー地域社会へのまなざし」（2015年）にも参加。



トークイベントの様子

ダラ・リーヴス

国 籍：イギリス

滞在期間：2015年11月13日～12月27日

映画監督でもあるダラ・リーヴスは、主に、「時間」をテーマに映像作品を制作するアーティストである。前橋では、時計店の協力を得て、ショーケースにある時計を開店から閉店までの約9時間、1秒に1枚の写真を取り続けた。それらをの一部を編集し、パイロット版の映像作品を制作した。最終的に、その映像の公開とトーク、また滞在中に1日1枚描いたドローイングの展示を行った。

プロフィール

1974年イギリス生まれ。アーティスト、映画監督。2000年にニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアートを卒業。作品は主に映像を素材とし、時間といった概念が、作品における重要な要素となっている。主な活動として、アムステルダム市立美術館やサンパウロ近代美術館での展示など。作品はヨーロッパ、アメリカ、南米、アジア各地の美術館にコレクションされている。

萩原留美子

国 籍：日本

滞在期間：2016年2月24日～3月24日

群馬県ゆかりのアーティストを対象にした公募により選ばれた萩原は滞在中、前橋をリサーチし、普段は気にとめないような日常を、写真や映像を使って別の角度から切り取り、視点を変えた物事の捉え方を提示するような作品を制作した。また、前橋の特徴である強風をもとにした作品アイデアも制作。最終的にはオープンスタジオを行い、制作した作品とアイデアを公開した。なおこのアイデアはブリュッセルの植物園での展示で実現した。

プロフィール

1999年高崎経済大学附属高等学校美術コース卒業。2004年東京造形大学卒業。現在アムステルダムを拠点に活動。作品は日常生活の範囲内で、ありふれた物事をあえて強調することや、偶然的に遭遇した物事を素材にすることによって構成されている。これらの日常への介入行為は、多様なフォーマットで記録されることによって作品化され、微妙な、そして時に遊び心のある詩的表現へ変換される。アムステルダムのライクスアカデミー(2008～2009年)、トーキョーワンダーサイト(2012年)、AIRアントワープ(2013年)などの滞在制作に参加。



作品制作の様子



トークイベントの様子



作品制作の様子



オープンスタジオの様子

梅沢英樹

国 籍：日本

滞在期間：2016年12月3日～12月27日

群馬県ゆかりのアーティストを対象にした公募により選ばれた梅沢は、前橋に住んでいた祖父との記憶を手がかりに、過去との記憶や過去から現在までの時間の流れをテーマに作品を制作。前橋の中心市街地や赤城山の大沼の底の音などを採取し、それらをサウンドインスタレーションとして展示を行った。

プロフィール

1986年群馬県生まれ、東京都在住。東京藝術大学大学院美術研究科在籍。国内外より電子音楽作品のリリースやインスタレーションの制作/発表、サウンド・パフォーマンスを行う。2015年はフランス、マレーシアにて作品を公演。主な受賞歴にリュック・フェラーリ国際コンクール/プレスク・リヤン賞受賞（2015年）。Contemporary Computer Music Concert 2015 ACSM116賞受賞。これまでの展示に『0°C』（blanClass、2016年）など。

アンナ・ヴィット

国 籍：日本

滞在期間：2017年1月14日～3月19日

前橋における「人・街の高齢化」と「労働力として増える移民」を、介護施設で働く外国人へ職場での経験や日本と母国での「老い」の考え方などをインタビューした。そのインタビュー映像をもとに、県内で長年熱心に活動するダンサーたちにダンスを作ってもらい、それを前橋に古くからある商店街で撮影し、映像作品を制作した。最終的には、その映像作品の公開とトークイベントを行った。

プロフィール

1981年ドイツ生まれ。オーストリアのウィーンを拠点に活動。2008年にモニカ・ボンヴィチーニのもとでパフォーマンスを含むインスタレーション作品で修士号を取得。Manifesa7（2008）、ベルリンビエンナーレ（2010）、リュブリャナの第29回グラフィック・アーツ・ビエンナーレ（2011）、ロンドンのLux/ICA動画ビエンナーレ（2012）、ルール・トリエンナーレ（2013）、オフ・ビエンナーレ・ブダペストおよびウィーン・ビエンナーレ（2015）など数多くの国際的な展覧会に参加。2013年に40歳以下を対象としたオーストリアのアーティストに与えられるBC21 Art Awardを受賞。



展示の様子



トークイベントの様子



商店街での制作の様子



トークイベントの様子

アーツ前橋 豎町スタジオ利用アーティスト

小林達也

国 籍：日本

利用期間：2016年8月14日、18日、19日、21日、25日、26日

アーツ前橋の展覧会「コレクション+ 行為と痕跡」の出展作家である小林は、展覧会の関連イベントとして、オープンスタジオを豎町スタジオで行った。制作風景を公開するとともに、来場者との交流を通して作品の制作を行った。

プロフィール

1973年神奈川県生まれ。桐生市在住。1998年筑波大学大学院芸術研究科美術専攻修了。2001年個展「マイナスドライブ」(ギャラリー・グラフィカbis、東京)、「群馬青年ビエンナーレ'01」(群馬県立近代美術館/群馬)、2006年「第24回上野の森美術館大賞展」(上野の森美術館/東京)、2007年「VOCA展2007 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館/東京)、2008年「トーキョーワンダーウォール2008」(東京都現代美術館/東京)、2012年「館林ジャンクション—中央関東の現代美術—」(群馬県立館林美術館/群馬)、2014年個展「echo」(PENSEE GALLERY/群馬)ほか2013年、2015年「中之条ビエンナーレ」に出品(群馬)。



公開制作の様子



公開制作の様子